

<p>＜白梅学びのエリア教育目標＞ よりよい未来・主役は子ども ～ 「自立・貢献・共生・創造」、よりよい未来を切り拓く人を目指して ～</p>		<p>2月号 令和8年1月30日 板橋区立金沢小学校 校長 神保 幸次郎</p>
<p>＜本校の教育目標＞ かしこく・やさしく・たくましく 令和7年度 金沢小だより</p>		

「ふれあい月間」と生活指導

校長 神保 幸次郎

1月往ぬる(行く)、2月逃げる、3月去るの言葉のように月が過ぎようとしています。

2月は「ふれあい月間」で、いじめをはじめ生活上の問題行動を未然防止、早期発見・対応をし、子どもたちの健全育成をめざす取組月間です。この期間には子ども全員にアンケートをとり、子どもの気持ちの把握に努めるほか、子ども同士のよりよい関係づくりに向けた生活目標を設定して指導・支援をしています。

ある日の朝、校内を巡回していると廊下で担任と一人の子どもが話をしているところを見かけました。それはそれはとても慎重な様子です。しばらくすると別の子どもが担任に呼ばれ、同じように慎重な様子で話をしていました。その後、担任が学年主任と共に職員室へやってきて事の経緯について報告がありました。聞けば子ども間のトラブルでした。すぐに対応と保護者との連携など指導・支援の方向性を確認し、担任たちは授業をしに教室へ向かいました。

その後も担任は休み時間やわずかな隙間時間を活用して、当事者の子どもも、周りにいた子どもたちに丁寧に聞き取りを行い、起こった状況と子ども一人ひとりの気持ちの把握に努めていました。

聞き取りにおいては、素直にすべてを語る子もいれば、話をしているうちに断片的だった記憶がつながりはじめたり、自分を繕うように言葉を選んで語る子もいます。これが低学年であると持ち合わせている言葉が十分でないため、周りから聞いていることとズレが生じることもしばしばあります。担任はどのような言葉であっても、まず子どもの話を聞いた上で、その出来事が子どものよりよい学びにつながるためにはどのようにしたら良いかを管理職を含めたチームで検討をし、その後の指導と支援、そして心のケアを行っています。

そのプロセスで欠かせないのが家庭との連携です。担任等は聞き取ったことや状況について、子どもの様子などを踏まえながら伝えることを心がけています。しかし、ご家庭は情報源がお子さんからに限られるため、不安や責任などやるせない思いを抱かれることがあると思います。

学校では、道徳や社会のルールに照らし合わせて「いけないことはいけない」と毅然と指導します。同時にトラブルに至った気持ちをくみ取りながら、子ども自身が自分の考えで望ましい方向へと歩み出せるよう、ねばり強く支援をしていきます。

学校は、どの子も楽しく学び、生活してほしいと教育活動に努めていますが、楽しいことばかりが毎日続くわけではありません。学び盛り、育ち盛りの段階にいる子どもが過ごしているのですから、トラブルが生じることは不思議ではないことです。近年ではスマートフォンを持つ子が増えて、SNSに関するトラブルも珍しいことではありません。

子ども同士のトラブルは、子どもが生活する子どもの社会と心を眞に見つめ直すきっかけにもなります。今後も、ご家庭と手を携えながら、トラブルを子どもの成長する学びや力へと導いていきたいと思います。



Google Gemini で生成しました